

～旧約聖書を読んで感じること～ (67) ダビデの将軍 ヨアブ



ダビデの勇士 J. Tissot

ダビデの将軍ヨアブは、ダビデの姉ツェルヤの息子たち、ヨアブ、アビシャイ、アサエルの三人兄弟の長男でした。(歴上 2:16) この三兄弟はダビデがサウルの追跡を逃れていた時からダビデの下で共に戦いました。サウルに最後に遭遇したジブの陣営でサウルを狙えるチャンスがあったのに、ダビデの「殺してはならない。主が油を注がれた方に手をかければ、罰を受けずには済まない。主は生きておられる。主がサウルを打たれるであろう」(サム上 26:9)との言葉を聞いています。ヨアブはサウル亡き後、王となったイシュ・ボシエトの将軍アブネルとの戦いで、弟のアサエルを殺されました。その後、アブネルの寝返りによって、ダビデが王となった時、相互の契約、調停のためやって来たアブネルを暗殺し、ダビデに責められています。

ヨアブは勇敢で、統率力があり、ダビデに忠実で、ダビデを心から愛している戦士でしたから、エルサレムを陥落させた時に、ダビデ軍全体の司令官となりました。ペリシテとの闘い、ギブオンにおけるサウル軍、アラム軍、アンモン軍、アブサロム軍、反逆者シェバの掃討などあらゆる戦いで指揮しています。「目には目、歯には歯」というハッキリとした同害報復の気持ちを持っていました。

それだけではなく、ダビデがバト・シェバに狂った時、夫を前線に出し討死させるようとのダビデの命令に従っています。また、アブサロムが逃亡した時、アブサロムを呼び戻すため、仲裁の労を取りました。常にダビデの側に立って、行動する人物ですから、ダビデにとっては有難い存在なのです。アブサロムが本当に兄殺しを後悔し、誠実に生きる人間であれば、ヨアブはアブサロムをも愛したかもしれませんが、アブサロムは自分の思いを遂げようとヨアブの大麥の畑に火をつけて脅迫する人物でしたから、アブサロムに対しては全く信用できない人間と考えていたのでしょう。

アブサロムが謀反を起こし、最後に檜の木に宙づりになった時、ヨアブは冷静にアブサロムを討ち、止めを刺しました。それで謀反劇に終止符が打たれ、ダビデは勝利しました。けれどもダビデはアブサロムの死を激しく悼み、ヨアブの忠心を傷つけました。彼は敢然とダビデを非難しました。

「王は今日、王のお命、王子、王女たちの命、王妃、側女たちの命を救ったあなたの家臣全員の顔を恥にさらされました。あなたを憎む者を愛し、あなたを愛する者を憎まれるのですか。わたしは今日、将軍も兵士もあなたにとっては無に等しいと知らされました。この日、アブサロムが生きていて、我々全員が死んでいたら、あなたの目に正しいと映ったのでしょうか。とにかく立って外に出、家臣の心に語りかけてください。主に誓って言いますが、出て来られなければ、今夜あなたと共に過ごす者は一人もいないでしょう。それはあなたにとって、若いときから今に至るまでに受けたどのような災いにもまして、大きな災いとなるでしょう。」(サム下19:6)

ダビデはその時はヨアブの言葉を聞き入れましたが、ヨアブに代えてアブサロムの司令官であったアマサを任命すると言い出し、ヨアブを恨むのです。けれどもアマサはダビデには忠実ではありませんでした。それを知ったヨアブはアマサを暗殺し、再び将軍として戦い、勝利します。

その後、ヨアブは、ダビデの「人口調査をせよ」との命令に対して批判しますが、従いました。ダビデは後になって、それをも悔いました。やがてヨアブの弟アビシャイが将軍として働き始めました。

そして王位継承の争いが始まった時、ヨアブはダビデの4男アドニヤに話を持ち掛けられ、彼を支持します。王となったソロモンによって、主の天幕の祭壇に逃げていたところを殺されました。その理由は、戦場での殺し合いは当然であるが、暗殺による殺人は認められないと粛清されたのです。